



IT業界にいるのだから、我々SEはもっとITを活用して打ち合わせや仕事を進めてもいいと思う。ところが、会議の連絡をメールで送ることくらいが唯一のITの活用で、相変わらず紙にプリントアウトして資料を配付するアナログ的な会議がほとんどだ。しかも、会議の数が多すぎる。コンピュータに触れているよりも会議をしている時間のほうが長い。

会議は大きく分けて2種類ある。一つは、決定事項を「承認」する場だ。出席者に、すでに決まったことを伝達して了解してもらうことが目的である。だから、この会議ではあまり議論は起こらない。

もう一つは、会議というよりディスカッションといったほうがいいものだ。戦略を考えたり、提案を要求したり、課題を整理したりする会議である。誰かが一方的に話をするのではなく、みなで意見を出し合う。この会議では、会議の趣旨に関係ないことで議論が白熱したり、アイデアが発散して長時間に及ぶこともある。多くのSEが、そんな生産性の低い会議を早急に終えて、コンピュータに触れる仕事に戻りたいと思っているだろう。

そんなとき、役職や年齢に関係なく、さっと立ち上がって、ホワイトボードに問題を書き出して整理するSEがいる。議論の進行状況を整理したり、出された意見を集約したり、事の軽重によって優先度を考えたりする。自分の意見を押し通すわけではない。聞き役に回りながら話を進めていくのだ。そういう交通整理ができるSEはあまり多くない。リーダーの素質を持った優秀なSEなのである。

私もホワイトボードに書いて整理することをよくやる。しかし、ちょっと不純な動機だ。会議の司会進行をしながら、ホワイトボードで内容を整理したらカッコいいと思うからだ。第三者からは、間違いなくそう見えるだろう。みなさんも試してほしい。

ところが、一度、失敗したことがある。ホワイトボードに会議事項を整理したあとで、後片付けに入った。「なかなかの調整能力だったな」などと自己満足に浸りながら白板消しで消そうとした。ところが、消えない。白板消しが字の上をすべるだけである。ペンを目に近づけて驚いた。それはホワイトボード用ではなく、油性のマジックだったのだ。

「誰だ、ここに置いたのは！」と叫んだが、あとの祭りである。そのあと、あらゆる手段を使って必死に消した。カッコいいはずのホワイトボードでの説明が一転して、情けない姿に変わってしまった。みなさんも、くれぐれもご注意を。